

土木関係積算標準・積算要領

6 － 2

(基礎・けた編)

新 旧 対 照 表

令和 7 年版

(令和7年11月)

ページ	改 正	現 行
P1	(略) 3. 施工概要 オールケーシング工法は、打込準備（敷鉄板の賃料及び設置・撤去含む）<u>及び杭芯出しの後に、掘削機を据付け</u><u>る。その後、</u>ケーシングチューブを建込み、ケーシングチューブを押込みながらハンマグラブによって土砂及び岩砕の搬出を行う。 支持層に達したことを確認した後、孔内清掃（スライム処理）、鉄筋建込みを行い、さらにトレミー管によりコンクリートを打設しながらケーシングパイプを引抜くことによって杭を施工する。 3-1 施工フロー 施工フローは、下記を標準とする。 <pre>graph TD A[機材搬入] --> B[機械組立] B --> C[打込準備] C --> D[杭芯出し] D --> E[機械移動据付] E --> F[ケーシング建込、掘削] F --> G[スライム処理] G --> H[鉄筋かご、トレミー管建込] H --> I[コンクリート打設 ケーシング引抜] I --> J[機材分解] I --> K[杭頭処理 引抜・整形] J --> L[機材搬出] K --> M[殻運搬・処分等] C --> N[鉄筋かご製作] N --> H F --> O[土砂仮置] O --> P[土砂運搬] G --> E I --> E E -.-> E</pre> (注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。	(略) 3. 施工概要 オールケーシング工法は、打込準備（敷鉄板の賃料及び設置・撤去含む）<u>を行ったのち、杭芯出しを行い</u><u>_____</u>ケーシングチューブを建込み、ケーシングチューブを押込みながらハンマグラブによって土砂及び岩砕の搬出を行う。 支持層に達したことを確認した後、孔内清掃（スライム処理）、鉄筋建込みを行い、さらにトレミー管によりコンクリートを打設しながらケーシングパイプを引抜くことによって杭を施工する。 3-1 施工フロー 施工フローは、下記を標準とする。 <pre>graph TD A[機材搬入] --> B[機械組立] B --> C[準備] C --> D[杭芯出し] D --> E[ケーシング建込、掘削] E --> F[スライム処理] F --> G[鉄筋かご、トレミー管建込] G --> H[コンクリート打設 ケーシング引抜] H --> I[機材分解] H --> J[杭頭処理] I --> K[機材搬出] J --> L[殻処分等] C --> M[鉄筋かご製作] M --> G E --> N[土砂仮置] N --> O[土砂運搬] F --> D H --> D D -.-> D</pre> (注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

ページ

P3

5. 機種の選定

5-1 機種の選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表 5-1 機種の選定

機械名	規格	単位	設計杭径					摘要
			1,000 mm 1,100 mm 1,200 mm		1,300 mm 1,500 mm		1,800 mm 2,000 mm	
			掘削長 40m 以下	掘削長 40m 超え 60m 以下	掘削長 20m 以下	掘削長 20m 超え 50m 以下	掘削長 50m 以下	
全回転型オール ケーシング掘削機	ケーシングドライバ （スキッド式・ディー ゼル／油圧駆動）最大 掘削径 1,500 mm	台	1	二	1	二	二	
	ケーシングドライバ （スキッド式・ディー ゼル／油圧駆動）最大 掘削径 2,000 mm	//	二	1	二	1	1	
クローラクレーン	油圧駆動式ウインチ・ ラチスジブ型・基礎工 事用排出ガス対策型 （2014 年規制） 70～90 t 吊	//	1	二	1	二	二	
	油圧駆動式ウインチ・ ラチスジブ型・基礎工 事用排出ガス対策型 （2014 年規制） 100 t 吊	//	二	1	二	1	1	
バ ッ ク ホ ウ （クローラ型）	後方超小旋回型・超低 騒音型・排出ガス対策 型（2014 年規制） 山積 0.5 m ³ （平積 0.4 m ³ ）	//	1					

（注） 1. 掘削土砂は、掘削機よりベッセルに排土し、クローラクレーンで旋回範囲内に仮置きし、水切りした後に運搬するものを標準とする。

2. 土砂運搬については、「土工要領 2. 土工」により、別途計上する。

3. バックホウは、賃料とする。

4. 現場条件により上表により難しい場合は 別途考慮する。

（削る。）

5. 機種の選定

5-1 機種の選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表 5-1 機種の選定

作業種別	機 種	規 格	単位	数 量	摘要
	全回転型オール ケーシング掘削機	ケーシングドライバ（スキ ッド式・ディーゼル／油圧 駆動）最大掘削径 1,500 mm 又は 2,000 mm	台	1	図 5-1 表 5-2
掘削機設置・撤去、鉄筋 かご、ケーシング、トレ ミー管建込み、敷鉄板 設置・撤去、掘削作業	クローラクレーン	油圧駆動式 ウインチ・ラチスジブ型 排出ガス対策型 （第 3 次基準値）70 t 吊 又は 油圧駆動式 ウインチ・ラチスジブ型 排出ガス対策型 （2011 年規制）100 t 吊	//	1	図 5-2 表 5-3
杭周り・機械周り整地、 杭穴の埋戻し整地、 掘削土集土	バ ッ ク ホ ウ （クローラ型）	標準型・排出ガス対策型 （第 3 次基準値） 山積 0.45 m ³ （平積 0.35 m ³ ）	//	1	

（注） 1. 掘削土砂は、掘削機よりベッセルに排土し、クローラクレーンで旋回範囲内に仮置きし、水切りした後に運搬するものを標準とする。

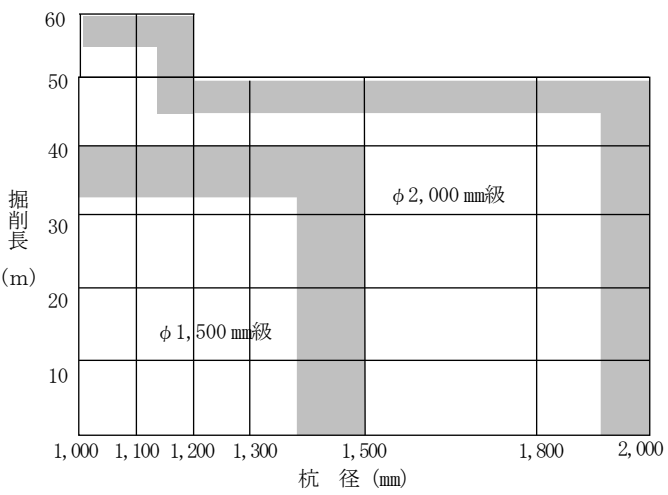
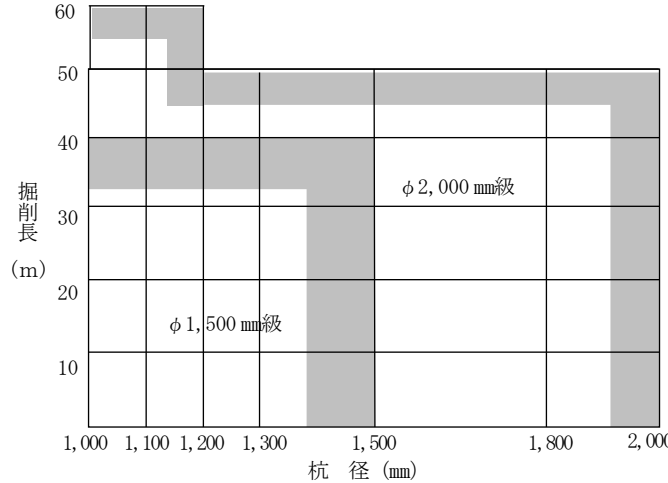
2. 掘削土処理については、「土工要領 2. 土工」により、別途計上する。

3. 現場条件により上表により難しい場合は 別途考慮する。

4. バックホウは、賃料とする。

5-2 掘削機の規格

掘削機の規格は、杭径及び掘削長により次図を標準とする。また、現場条件によりこれにより難しい場合は別途選定する。

ページ	改 正	現 行
P4	 図 5-1 全回転型オールケーシング掘削機とクローラクレーンの選定図	 図 5-1 掘削機別選定 全回転式オールケーシング掘削機

ページ	改 正	現 行																										
P4	(削る。)	表 5-2 掘削機選定基準 <table><tr><th>掘削機</th><th>掘削長</th><th>設計杭径 (mm)</th></tr><tr><td><u>φ 1,500 mm級</u></td><td>40m以下</td><td><u>1,000・1,100・1,200・1,300・1,500</u></td></tr><tr><td rowspan="3"><u>φ 2,000 mm級</u></td><td>40mを超え 60m以下</td><td><u>1,000・1,100・1,200</u></td></tr><tr><td>40mを超え 50m以下</td><td><u>1,300・1,500</u></td></tr><tr><td>50m以下</td><td><u>1,800・2,000</u></td></tr></table> 5-3 クローラクレーンの規格 クローラクレーンの規格は、杭径及び掘削長により次図を標準とする。また、現場条件によりこれにより難しい場合は別途選定する。 Figure 5-2 is a graph showing the selection of crawler cranes based on pile diameter (杭径) in mm on the x-axis and excavation length (掘削長) in m on the y-axis. The x-axis ranges from 1,000 to 2,000 mm with increments of 100 mm. The y-axis ranges from 10 to 60 m with increments of 10 m. The graph is divided into three regions by solid red lines: 1. Top-left region: 100 t 吊 (100 t crane) for diameters 1,000-1,200 mm and lengths 40-60 m. 2. Top-right region: 100 t 吊 (100 t crane) for diameters 1,200-2,000 mm and lengths 40-50 m. 3. Bottom-right region: 70 t 吊 (70 t crane) for diameters 1,200-2,000 mm and lengths 20-40 m. Dashed red lines indicate the boundaries between these regions. 図 5-2 クローラクレーン別選定 表 5-3 クローラクレーン選定基準 <table><tr><th>規格</th><th>掘削長</th><th>設計杭径 (mm)</th></tr><tr><td rowspan="2"><u>70 t 吊</u></td><td>50m以下</td><td><u>1,000・1,100・1,200</u></td></tr><tr><td>40m以下</td><td><u>1,300・1,500・1,800・2,000</u></td></tr><tr><td rowspan="2"><u>100 t 吊</u></td><td>50mを超え 60m以下</td><td><u>1,000・1,100・1,200</u></td></tr><tr><td>40mを超え 50m以下</td><td><u>1,300・1,500・1800・2,000</u></td></tr></table>	掘削機	掘削長	設計杭径 (mm)	<u>φ 1,500 mm級</u>	40m以下	<u>1,000・1,100・1,200・1,300・1,500</u>	<u>φ 2,000 mm級</u>	40mを超え 60m以下	<u>1,000・1,100・1,200</u>	40mを超え 50m以下	<u>1,300・1,500</u>	50m以下	<u>1,800・2,000</u>	規格	掘削長	設計杭径 (mm)	<u>70 t 吊</u>	50m以下	<u>1,000・1,100・1,200</u>	40m以下	<u>1,300・1,500・1,800・2,000</u>	<u>100 t 吊</u>	50mを超え 60m以下	<u>1,000・1,100・1,200</u>	40mを超え 50m以下	<u>1,300・1,500・1800・2,000</u>
掘削機	掘削長	設計杭径 (mm)																										
<u>φ 1,500 mm級</u>	40m以下	<u>1,000・1,100・1,200・1,300・1,500</u>																										
<u>φ 2,000 mm級</u>	40mを超え 60m以下	<u>1,000・1,100・1,200</u>																										
	40mを超え 50m以下	<u>1,300・1,500</u>																										
	50m以下	<u>1,800・2,000</u>																										
規格	掘削長	設計杭径 (mm)																										
<u>70 t 吊</u>	50m以下	<u>1,000・1,100・1,200</u>																										
	40m以下	<u>1,300・1,500・1,800・2,000</u>																										
<u>100 t 吊</u>	50mを超え 60m以下	<u>1,000・1,100・1,200</u>																										
	40mを超え 50m以下	<u>1,300・1,500・1800・2,000</u>																										

ページ

P5

改正

6. 編成人員

掘削機 1 編成に対する編成人員は、次表を標準とする。

表 6-1 編成人員

(人／編成)

職 種	土木一般世話役	運転手（特殊）	と び 工	特殊作業員	普通作業員
編成人員	1	2	1	1	1

(注) 1. 上表は、掘削、鉄筋かご建込み、コンクリート打設等及びその準備等を含んだ一連の作業にたずさわる人員である。

2. 運転手（特殊）は、掘削機及びクローラクレーン各 1 人である。

7. 施工歩掛

7-1 施工日数

杭 1 本当りの施工日数D c は、次式による。

D c =D c 1 + D c 2

D c : 杭 1 本当り施工日数 (日／本)

D c 1 : 杭 1 本当り掘削日数 (日／本)

D c 2 : 杭 1 本当りのコンクリート打設等の施工日数 (日／本)

7-2 杭 1 本当りの掘削日数（D c 1）

杭 1 本当りの掘削日数（Dc1）は、次表の掘削日数を、掘削する土質毎に下記のとおり算出する。

Dc1＝（T1×ℓ1）＋（T2×ℓ2）＋……（日／本）（Dc1 は、少数第 3 位を四捨五入し、少数第 2 位とする。）

Tn：各土質の掘削日数

ℓn：各土質の掘削長（m）

(例) 全回転型オールケーシング掘削機

掘削長 20m（レキ質土、粘性土、砂及び砂質土 15m、硬岩Ⅰ 5m）の場合

Dc1 ＝ （0.03×15）＋（0.08×5）＝ 0.85

表 7-1 掘削長 1m 当りの掘削日数

(日／m)

土 質	レキ質土 粘性土 砂及び砂質土	岩塊・玉石 軟岩Ⅰ	軟岩Ⅱ	硬岩Ⅰ 中硬岩
掘削日数	0.03	0.04	0.06	0.08

(注) 1. 掘削日数はケーシング建込日数を含む。

2. ケーシングの仮置きは、現場内を標準とするが、現場条件等により、ケーシング運搬が必要な場合は、別途考慮する。

3. チゼル等を用いて地中障害物等を撤去する場合は、別途考慮する。

現 行

6. 編成人員

掘削機 1 編成に対する編成人員は、次表を標準とする。

表 6-1 編成人員

(人／編成)

職 種	土木一般世話役	運転手（特殊）	と び 工	特殊作業員	普通作業員
編成人員	1	2	1	1	1

(注) 1. 上表は、掘削、鉄筋かご建込み、コンクリート打設等及びその準備等を含んだ一連の作業にたずさわる人員である。

2. 運転手（特殊）は、掘削機及びクローラクレーン各 1 人である。

7. 施工歩掛

7-1 施工日数

杭 1 本当りの施工日数D c は、次式による。

D c =D c 1 + D c 2

D c : 杭 1 本当り施工日数 (日／本)

D c 1 : 杭 1 本当り掘削日数 (日／本)

D c 2 : 杭 1 本当りのコンクリート打設等の施工日数 (日／本)

7-2 杭 1 本当りの掘削日数（D c 1）

杭 1 本当りの掘削日数（Dc1）は、次表の掘削日数を、掘削する土質毎に下記のとおり算出する。

Dc1＝（T1×ℓ1）＋（T2×ℓ2）＋……（日／本）（Dc1 は、少数第 3 位を四捨五入し、少数第 2 位とする。）

Tn：各土質の掘削長 1m 当りの掘削日数

ℓn：各土質の掘削長（m）

(例) 全回転型オールケーシング掘削機

掘削長 20m（レキ質土、粘性土、砂及び砂質土 15m、硬岩Ⅰ 5m）の場合

Dc1 ＝ （0.03×15）＋（0.08×5）＝ 0.85

表 7-1 掘削長 1m 当りの掘削日数

(日／m)

土 質	レキ質土 粘性土 砂及び砂質土	岩塊・玉石 軟岩Ⅰ	軟岩Ⅱ	硬岩Ⅰ 中硬岩
掘削日数	0.03	0.04	0.06	0.08

(注) 掘削日数はケーシング建込日数を含む。

ページ

P6

改

正

7-3 杭1本当りのコンクリート打設等の施工日数（D c 2）

杭1本当りのコンクリート打設等の施工日数（Dc2）には打込準備（敷鉄板の設置・撤去含む）、芯出し、機械移動据付、検尺、注水、スライム処理、鉄筋かご建込、鉄筋かご継足、トレミー管建込、コンクリート打設・ケーシング引抜、トレミー管引抜を含む。

表 7-2 杭1本当りコンクリート打設等の施工日数（日／本）

掘 削 長	杭1本当りのコンクリート打設等の施工日数
0< ℓ ≤10	0.45
10< ℓ ≤20	0.70
20< ℓ ≤30	0.97
30< ℓ ≤40	1.24
40< ℓ ≤50	1.50
50< ℓ ≤60	1.76

(注) コンクリート打設はアジテータとコンクリート打込スロープを使用した施工を標準とする。なお、現場条件等により、コンクリート打込スロープが使用できない場合には、別途考慮する。

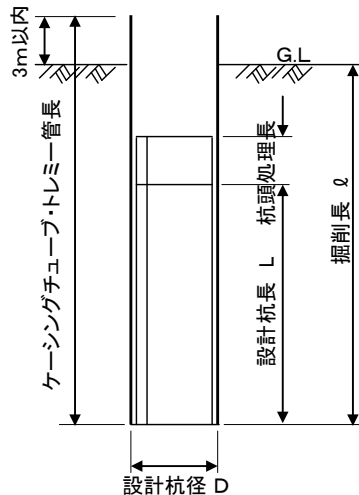


図 7-1 全回転式施工図

7-4 材料使用量

杭1本に必要なコンクリート使用量は、次式による。

Q = π/4 × D² × L × (1+K)

Q : 杭1本当りのコンクリート使用数量（m³／本）

D : 設計杭径（m）

L : 設計杭長（m）

K : ロス率

コンクリート使用数量のロス率（損失＋杭頭処理分を含む）は、次表とする。

表 7-3 ロス率（K）

ロス率	+0.09
-----	-------

現

行

7-3 杭1本当りのコンクリート打設等の施工日数（D c 2）

杭1本当りのコンクリート打設等の施工日数（Dc2）には 芯出し、機械移動据付、検尺、注水、スライム処理、鉄筋かご建込、鉄筋かご継足、トレミー管建込、コンクリート打設・ケーシング引抜、トレミー管引抜を含む。

表 7-2 杭1本当りコンクリート打設等の施工日数（日／本）

掘 削 長	杭1本当りのコンクリート打設等の施工日数
0< ℓ ≤10	0.45
10< ℓ ≤20	0.70
20< ℓ ≤30	0.97
30< ℓ ≤40	1.24
40< ℓ ≤50	1.50
50< ℓ ≤60	1.76

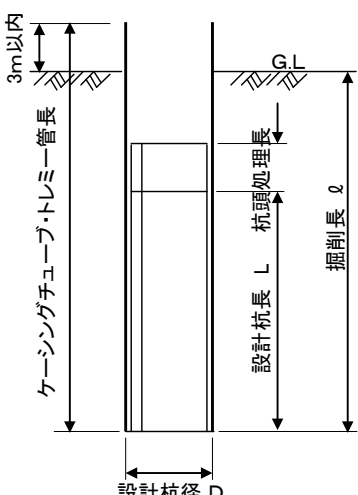


図 7-1 全回転式施工図

7-4 材料使用量

杭1本に必要なコンクリート使用量は、次式による。

Q = π/4 × D² × L × (1+K)

Q : 杭1本当りのコンクリート使用量（m³／本）

D : 設計杭径（m）

L : 設計杭長（m）

K : ロス率

コンクリート量のロス率（損失＋杭頭処理分を含む）は、次表とする。

表 7-3 ロス率（K）

ロス率	+0.09
-----	-------

ページ

現 P7
改 P8

改

正

7-7

ビット等損耗費

杭 1 本あたりビット等損耗費は、ケーシングチューブに取付けるビットの費用であり、労務費、運転経費、機械損料及び機械賃料の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する（杭頭処理の労務費、機械賃料及び運転経費は含まない）。

表 7-6 ビット等損耗费率（P） (%)

土質 設計杭径	レキ質土 粘性土 砂及び砂質土	岩塊・玉石	軟岩Ⅰ	軟岩Ⅱ	中硬岩	硬岩Ⅰ
1, 000mm	0. 3%	31%	13%	10%	35%	65%
1, 100mm 1, 200mm	0. 4%	37%	15%	12%	41%	75%
1, 300mm	0. 4%	43%	18%	14%	48%	88%
1, 500mm	0. 5%	53%	22%	18%	59%	110%
1, 800mm	0. 6%	61%	25%	20%	67%	126%
2, 000mm	0. 7%	67%	28%	22%	74%	138%

（注）1. ビット損耗費は、掘削する土質に損耗费率を加重平均して算出する。

損耗费率P =

$$\frac{P 1 \times L 1 + P 2 \times L 2 \cdots \cdots}{L 1 + L 2 \cdots \cdots}$$

ここで、P n：各土質のビット損耗费率
L n：各土質の掘削長 （m）

2. Pは小数点以下 1 桁とし、少数第 2 位を四捨五入する。
（例）設計杭径 1,000mm、砂質土 5m、レキ質土 15m、岩塊・玉石 3m、軟岩Ⅱ3m の場合

P =

$$\frac{0. 3 \% \times 5 \text{m} + 0. 3 \% \times 15 \text{m} + 31 \% \times 3 \text{m} + 10 \% \times 3 \text{m}}{5 \text{m} + 15 \text{m} + 3 \text{m} + 3 \text{m}}$$

= 4. 96 … ≒5. 0 %

7-8 機械損料

機械損料は次表による。

表 7-7 機械損料表

機 械 名	規 格	損料対象 供用日数	供用日当り 換算値損料	燃料消費量
全回転型 オールケーシング掘削機	ケーシングドライバ （スキッド式・ディーゼル/油圧駆動） 最大掘削径 φ 1, 500 mm	D c × 1. 46 × N P	共通要領による	φ 1, 500 mm D c × 88ℓ × N P
	ケーシングドライバ （スキッド式・ディーゼル/油圧駆動） 最大掘削径 φ 2, 000 mm			φ 2, 000 mm D c × 145ℓ × N P
クローラクレーン	油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型・ <u>基礎工事用・排出ガス対策型（2014 年規制）</u> 70～90 t 吊	D c × 1. 39 × N P	〃	D c × 106ℓ × N P
	油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型・ <u>基礎工事用・排出ガス対策型（2014 年規制）</u> 100 t 吊	〃	〃	D c × 119ℓ × N P

N P：杭総本数

現

行

(新設)

7-7 機械損料

機械損料は次表による。

表 7-6 機械損料表

機 械 名	規 格	損料対象 供用日数	供用日当り 換算値損料	燃料消費量
全回転型 オールケーシング掘削機	ケーシングドライバ （スキッド式・ディーゼル/油圧駆動） 最大掘削径 φ 1, 500 mm	D c × 1. 46 × N P	共通要領による	φ 1, 500 mm D c × 88ℓ × N P
	ケーシングドライバ （スキッド式・ディーゼル/油圧駆動） 最大掘削径 φ 2, 000 mm			φ 2, 000 mm D c × 145ℓ × N P
クローラクレーン	油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型・ <u>基礎工事用・排出ガス対策型（第 3 次基準値）</u> 70 t 吊	D c × 1. 39 × N P	〃	D c × 106ℓ × N P
	油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型・ <u>排出ガス対策型（2011 年規制）</u> 100 t 吊	〃	〃	D c × 119ℓ × N P

N P：杭総本数

ページ

改正

現行

現 P8
改 P9

7-9 諸雑費

_____諸雑費は、施工機械足場用の足場材（敷鉄板）賃料及び設置・撤去、ハンマグラブ、ケーシングチューブ、ハンマクラウン、スライムバケット、プランジャ、ベッセル、スラッシュタンク、トレミー管、コンクリート打込みスロープ、吊金具、吊ワイヤ、**付着防止材、口径変更器具、工事用水中モータポンプの賃料、副バンド装着の損料、電力に関する経費等の費用であり、労務費、運転経費、機械損料及び機械賃料の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する（杭頭処理の労務費、機械賃料及び運転経費は含まない）。**

表 7-8 諸雑费率

(%)

(削る。)

設計杭径	1,000mm	1,100mm	1,200mm	1,300mm	1,500mm	1,800mm	2,000mm
諸雑费率	24	25	27	29	34	38	41

(注) ビット等損耗费率は、諸雑費対象額としない。

7-10 営業線近接作業の補正

営業線近接作業の補正が生じた場合、杭 1 本当たり（D c）の補正はコンクリート打設**を**補正対象外と**し**、歩掛補正率に 80%を乗じて計上する。また、杭頭処理は通常の補正とする。

7-11 機械の運転経費

表 7-9 機械の運転経費

機 械 名	規 格	指 定 事 項
バ ッ ク ホ ウ (クローラ型)	後方超小旋回型・超低騒音型・ 排出ガス対策型 (2014 年規制) 山積 0.5 m³(平積 0.4 m³)	運転労務数量 →0.80 燃料消費量 → 35 機械賃料数量 →1.60

8. 共通仮設費（積上げ分）

8-1 運搬費

- ・オールケーシング掘削機、クローラクレーン〔油圧・駆動式ウインチ・ラチスジブ型〕の分解組立、運搬費は共通積算要領による。
- ・上記以外の機械器具は、共通仮設費の率で考慮している。

7-8 諸雑費

基礎杭工の諸雑費は、施工機械足場用の足場材（敷鉄板）賃料及び設置・撤去・移設、ハンマグラブ、ケーシングチューブ、ハンマクラウン、プランジャ、ベッセル、スラッシュタンク、トレミー管、コンクリート打込スロープ、吊金具、吊ワイヤ、_____工事用水中モータポンプの損料、副バンド装置の損料、ビット等の損耗費、電力に関する経費等の費用であり、労務費、運転経費、機械損料及び機械賃料の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する（杭頭処理の労務費、機械賃料及び運転経費は含まない）。

表 7-7 諸雑费率

(%)

全 回 転 式	29
---------	-----------

(新設)

7-9 営業線近接作業の補正

営業線近接作業の補正が生じた場合、杭 1 本当たり（D c）の補正はコンクリート打設**は**補正対象外と**なるため**、歩掛補正率に 80%を乗じて計上する。また、杭頭処理は通常の補正とする。

7-10 機械の運転経費

表 7-8 機械の運転経費

機 械 名	規 格	指 定 事 項
バ ッ ク ホ ウ (クローラ型)	標準型・ _____排出ガス対策型 (第 3 次基準値) 山積 0.45 m³(平積 0.35 m³)	運転労務数量 →0.80 燃料消費量 → 28 機械賃料数量 →1.60

8. 共通仮設費（積上げ分）

8-1 運搬費

- ・オールケーシング掘削機、クローラクレーン〔油圧・駆動式ウインチ・ラチスジブ型〕の分解組立、運搬費は共通積算要領による。
- ・上記以外の機械器具は、共通仮設費の率で考慮している。

ページ

現 P13
改 P10

9. 単 価 表

(1) オールケーシングくい 1.0 本当り単価表

歩掛コード		S10500		
-------	--	--------	--	--

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	1.0×(Dc)	表 6-1、7-1、7-2
運 転 手 （ 特 殊 ）		人	2.0×(Dc)	〃
と び 工		人	1.0×(Dc)	〃
特 殊 作 業 員		人	1.0×(Dc)	〃
普 通 作 業 員		人	1.0×(Dc)	〃
オールケーシング掘削機運転経費	全回転式	日	(Dc)	機械損料
クローラクレーン運転経費	油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型・基礎工事用・排出ガス対策型(2014 年規制) 70～90 t 吊又は 100 t 吊	日	(Dc)	〃
バックホウ運転経費	後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型(2014 年規制) 山積 0.5 m³ (平積 0.4 m³)	日	(Dc)	機械賃料
コンクリート				〃
ビット等損耗費		式	1	表 7-6
諸 雑 費	(労務費+機械経費)×率	%	〃	表 7-7
合 計				
1 本当り		本	1	

(注) D c : 杭 1 本当り施工日数

(2) 杭頭処理 1.0 本当り単価表

歩掛コード		S10600		
-------	--	--------	--	--

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表 7-4
特 殊 作 業 員		人		〃
ラフテレーンクレーン運転	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(2011 年規制) 50 t 吊	人		〃
諸 雑 費	(労務費+運転経費)×率	%	〃	〃
合 計				
1 本当り		本	1	

(注) コンクリート殻の産廃処理費が必要な場合は、別途計上すること。

現 行

10. 単 価 表

(1) オールケーシングくい 1.0 本当り単価表

歩掛コード		S10500		
-------	--	--------	--	--

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	1.0×(Dc)	表 6-1、7-1、7-2
運 転 手 （ 特 殊 ）		人	2.0×(Dc)	〃
と び 工		人	1.0×(Dc)	〃
特 殊 作 業 員		人	1.0×(Dc)	〃
普 通 作 業 員		人	1.0×(Dc)	〃
オールケーシング掘削機運転経費	全回転式	日	(Dc)	表 7-1、7-2
クローラクレーン運転経費	油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型 70 t 吊又は 100 t 吊	日	(Dc)	機械損料
バックホウ運転経費	クローラ型 排出ガス対策型(第 3 次基準値) 山積 0.45 m³ (平積 0.35 m³)	日	(Dc)	機械賃料
コンクリート				表 7-3
〃		〃		〃
諸 雑 費	(労務費+機械経費)×率	%	29	表 7-7
合 計				
1 本当り		本	1	

(注) D c : 杭 1 本当り施工日数

(2) 杭頭処理 1.0 本当り単価表

歩掛コード		S10600		
-------	--	--------	--	--

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表 7-4
特 殊 作 業 員		人		〃
ラフテレーンクレーン運転	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第 1 次基準値) 50 t 吊	人		〃
諸 雑 費	(労務費+運転経費)×率	%	19	〃
合 計				
1 本当り		本	1	

(注) コンクリート殻の産廃処理費が必要な場合は、別途計上すること。

ページ

改正

現 P14
改 P11

(3) 鉄筋かご製作 1.0 本当り単価表

歩掛コード

S103701

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
加 工 ・ 組 立		t	(Dc)	S103702
鉄 筋	規格毎	t		
材 料 費		式	1	(注)2
合 計		本		

(注) 1. D c : 杭 1 本当り鉄筋設計質量

2. 無溶接施工に要する組立鋼材（形鋼）の材料費及び加工費、固定金具はユーザ入力とし別途計上する。

3. 鉄筋加工場と施工現場が異なるなど、積込・荷卸し・運搬等が必要な場合には、必要な費用を別途計上する。

(4) 鉄筋かご加工組立 1.0 t 当り単価表

歩掛コード

S103702

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
鉄 筋 工		人	0.72	表 7-5
溶 接 工		人	0.36	〃
諸 雑 費	(労務費)×率	%	11	〃
合 計				

現 行

(3) 鉄筋かご製作 1.0 本当り単価表

歩掛コード

S103701

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
加 工 ・ 組 立		t	(Dc)	S103702
鉄 筋	規格毎	t		
材 料 費		式	1	(注)2
合 計		本		

(注) 1. D c : 杭 1 本当り鉄筋設計質量

2. 無溶接施工に要する組立鋼材（形鋼）の材料費及び加工費、固定金具はユーザ入力とし別途計上する。

(4) 鉄筋かご加工組立 1.0 t 当り単価表

歩掛コード

S103702

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
鉄 筋 工		人	0.72	表 7-5
溶 接 工		人	0.36	〃
諸 雑 費	(労務費)×率	%	11	〃
合 計				

ページ	改 正	現 行
P1	1 適用範囲 本要領は、掘削深度が 40m未満でかつ掘削面積が 40 m²以上 300 m²未満までのケーソン工事に適用する。 なお、次項の掘削条件などの場合、又は現場条件により本要領により難しい場合は、別途に積算する。 (1) 函内作業気圧（函内作業気圧とはゲージ圧力（絶対圧力：大気圧）をいう）が、0.4MPa 以上で施工する場合 (2) 工期等により 3 組以上で施工する場合 (3) ケーソン 1 基に対し、2 艀装（マンロック（空気減圧対応型）又はマンロック（酸素減圧対応型）1 艀装、マテリアルロック 1 艀装）以外で施工する場合 2 施工概要 2-1 工法説明 ケーソン工法は、ケーソンを構築し底部に作業室を設けて、送気設備より地下水に対抗する圧力の空気を送り、ドライに近い状態の室内へ作業員が入り、土砂を掘削、排出してケーソンを所定の支持地盤まで沈下させる工法である。 2-2 施工フロー 施工フローは、下記のとおりとする。 (略) (注) <u>1. 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。</u> <u>2. 埋戻工、コンタクトグラウト打設、止水壁撤去が必要な場合は、別途計上する。</u>	1 適用範囲 本要領は、掘削深度が 40m未満でかつ掘削面積が 40 m²以上 300 m²未満までのケーソン工事に適用する。 なお、次項の掘削条件などの場合、又は現場条件により本要領により難しい場合は、別途に積算する。 (1) 函内作業気圧（函内作業気圧とはゲージ圧力（絶対圧力：大気圧）をいう）が、0.4MPa 以上で施工する場合 (2) 工期等により 3 組以上で施工する場合 (3) ケーソン 1 基に対し、2 艀装（マンロック（空気減圧対応型）又はマンロック（酸素減圧対応型）1 艀装、マテリアルロック 1 艀装）以外で施工する場合 2 施工概要 2-1 工法説明 ケーソン工法は、ケーソンを構築し底部に作業室を設けて、送気設備より地下水に対抗する圧力の空気を送り、ドライに近い状態の室内へ作業員が入り、土砂を掘削、排出してケーソンを所定の支持地盤まで沈下させる工法である。 2-2 施工フロー 施工フローは、下記のとおりとする。 (略) (注) <u> 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。</u>

ページ

改正

P7

(略)

表 9-3 土質による補正係数 (β)

土質	砂、砂質土 粘性土及び粘土	レキ及び レキ質土	玉石混じり 砂レキ	軟岩 (Ⅰ)	軟岩 (Ⅱ)
補正係数	1.00	0.84	0.56	0.35	0.17

(注) 1. 刃口据付面から掘削深 3mまでは、上表を 30%低減する。
2. 軟岩 (Ⅰ) はピックハンマ等による掘削、軟岩 (Ⅱ) は発破を必要とする場合の歩掛である。
3. 軟岩 (Ⅱ) の場合、掘削 10 m³当り火薬 2.1 kg、雷管 13 個を計上する。
4. 軟岩 (Ⅱ) の場合は削岩機を、軟岩 (Ⅰ) の場合はピックハンマを次の台数を計上する。
掘削面積 40 m²以上 100 m²未満 2 台
空気圧縮機 (削岩機用) 7.5～7.8 m³/min
[可搬式・エンジン駆動・スクリュ型・排出ガス対策型 (第 1 次基準値)]×1 台
掘削面積 100 m²以上 300 m²未満 3 台

(略)

(8) 発破掘削材料費 掘削 10 m³当り単価表

歩掛コード		S131210		
名称	規格	単位	数量	摘要
火薬	含水爆薬 φ 25mm×100g	Kg	<u>2.1</u>	
瞬発電気雷管	脚線長 3.0m	個	<u>13</u>	
諸雑費		式	1	
計				

現 P28
改 P21

現行

(略)

表 9-3 土質による補正係数 (β)

土質	砂、砂質土 粘性土及び粘土	レキ及び レキ質土	玉石混じり 砂レキ	軟岩 (Ⅰ)	軟岩 (Ⅱ)
補正係数	1.00	0.84	0.56	0.35	0.17

(注) 1. 刃口据付面から掘削深 3mまでは、上表を 30%低減する。
2. 軟岩 (Ⅰ) はピックハンマ等による掘削、軟岩 (Ⅱ) は発破を必要とする場合の歩掛である。
3. 軟岩 (Ⅱ) の場合、掘削 10 m³当り火薬 3.3 kg、雷管 33 個を計上する。
4. 軟岩 (Ⅱ) の場合は削岩機を、軟岩 (Ⅰ) の場合はピックハンマを次の台数を計上する。
掘削面積 40 m²以上 100 m²未満 2 台
空気圧縮機 (削岩機用) 7.5～7.8 m³/min
[可搬式・エンジン駆動・スクリュ型・排出ガス対策型 (第 1 次基準値)]×1 台
掘削面積 100 m²以上 300 m²未満 3 台

(略)

(8) 発破掘削材料費 掘削 10 m³当り単価表

歩掛コード		S131210		
名称	規格	単位	数量	摘要
火薬	含水爆薬 φ 25mm×100g	Kg	<u>3.3</u>	
瞬発電気雷管	脚線長 3.0m	個	<u>33</u>	
諸雑費		式	1	
計				

ページ	改正	現 行																																				
P3	4. 材 料 4-1 鋼材単価 鋼材の単価は、材料単価表または物価資料による。 4-2 鋼材の割増率 材料の所要数量は、設計質量または本数に次表の割増率を乗じたものとする。 表 4-1 鋼材の割増率 <table><tr><th>種 別</th><th>割 増 率 (%)</th><th>記 事</th></tr><tr><td>鋼 板</td><td>13</td><td></td></tr><tr><td>形鋼、平鋼、棒鋼、一般鋼管、縞鋼板、コラム類</td><td>8</td><td></td></tr><tr><td>ボ ル ト ・ ナ ッ ト</td><td>3</td><td>アンカーボルトを除く</td></tr></table> (注) ボルト孔は差引かない。 [解説] 鋼材の割増率は設計質量に対する余材を見込んだものから、加工発生くず値を差し引いたものである。 4-3 溶接材料費 溶接材料費は、構造物の種類に拘わらず設計質量（購入部品を除く）当たり <u>18,200 円／t</u> とする。 なお、溶接材料費には工場製作に係る消耗材料等の副資材費を含んでいる。 4-4 塗料 表 4-2 塗料使用量 <table><tr><th>種 別</th><th>使用量</th><th>記 事</th></tr><tr><td>塗 料</td><td>標準使用量</td><td></td></tr></table> (略)	種 別	割 増 率 (%)	記 事	鋼 板	13		形鋼、平鋼、棒鋼、一般鋼管、縞鋼板、コラム類	8		ボ ル ト ・ ナ ッ ト	3	アンカーボルトを除く	種 別	使用量	記 事	塗 料	標準使用量		4. 材 料 4-1 鋼材単価 鋼材の単価は、材料単価表または物価資料による。 4-2 鋼材の割増率 材料の所要数量は、設計質量または本数に次表の割増率を乗じたものとする。 表 4-1 鋼材の割増率 <table><tr><th>種 別</th><th>割 増 率 (%)</th><th>記 事</th></tr><tr><td>鋼 板</td><td>13</td><td></td></tr><tr><td>形鋼、平鋼、棒鋼、一般鋼管、縞鋼板、コラム類</td><td>8</td><td></td></tr><tr><td>ボ ル ト ・ ナ ッ ト</td><td>3</td><td>アンカーボルトを除く</td></tr></table> (注) ボルト孔は差引かない。 [解説] 鋼材の割増率は設計質量に対する余材を見込んだものから、加工発生くず値を差し引いたものである。 4-3 溶接材料費 溶接材料費は、構造物の種類に拘わらず設計質量（購入部品を除く）当たり <u>17,300 円／t</u> とする。 なお、溶接材料費には工場製作に係る消耗材料等の副資材費を含んでいる。 4-4 塗料 表 4-2 塗料使用量 <table><tr><th>種 別</th><th>使用量</th><th>記 事</th></tr><tr><td>塗 料</td><td>標準使用量</td><td></td></tr></table> (略)	種 別	割 増 率 (%)	記 事	鋼 板	13		形鋼、平鋼、棒鋼、一般鋼管、縞鋼板、コラム類	8		ボ ル ト ・ ナ ッ ト	3	アンカーボルトを除く	種 別	使用量	記 事	塗 料	標準使用量	
種 別	割 増 率 (%)	記 事																																				
鋼 板	13																																					
形鋼、平鋼、棒鋼、一般鋼管、縞鋼板、コラム類	8																																					
ボ ル ト ・ ナ ッ ト	3	アンカーボルトを除く																																				
種 別	使用量	記 事																																				
塗 料	標準使用量																																					
種 別	割 増 率 (%)	記 事																																				
鋼 板	13																																					
形鋼、平鋼、棒鋼、一般鋼管、縞鋼板、コラム類	8																																					
ボ ル ト ・ ナ ッ ト	3	アンカーボルトを除く																																				
種 別	使用量	記 事																																				
塗 料	標準使用量																																					

ページ

現
P46
改
P36

改正

(4) 横締めケーブル 1.0m当り単価表

歩掛コード		S175410		
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人	0.7	表 7-7
橋 り よ う 特 殊 工		人	3.3	〃
普 通 作 業 員		人	1.9	〃
P C 鋼 線	2.482kg/m*100m*1.05	kg	261	〃
諸 雑 費	(労務費)×率	%	10.0	〃
合 計				
1m当り		m	100	

(注)ケーブル質量はロス率5%を含んだ値である。

(5) 横締め緊張 1.0ケーブル当り単価表

歩掛コード		S175420		
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人	0.4	表 7-8
橋 り よ う 特 殊 工		人	1.2	〃
普 通 作 業 員		人	0.6	〃
定 着 装 置	(緊張側)	組	10.0	表 7-9
定 着 装 置	(固定側)	組	10.0	〃
諸 雑 費	(労務費)×率	%	3.0	
合 計				
1ケーブル当り		ケーブル	10	

(6) 機械器具損料 1 工事当り単価表

歩掛コード		S175430		
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
緊 張 シ ャ ッ キ ・ ホ ン プ	570KN(60t)型	供用日		表 7-10
合 計				
1 工事当り		工事	1	

現 行

(4) 横締めケーブル 1.0m当り単価表

歩掛コード		S175410		
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人	0.7	表 7-7
橋 り よ う 特 殊 工		人	3.3	〃
普 通 作 業 員		人	1.9	〃
P C 鋼 線	2.482kg/m*100m*1.05	kg	261	〃
諸 雑 費	(労務費)×率	%	10.0	〃
合 計				
1m当り		m	100	

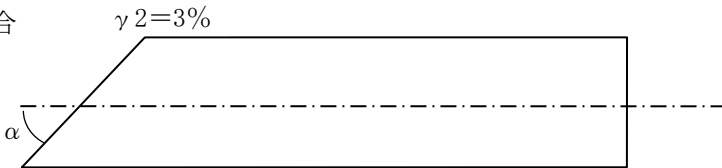
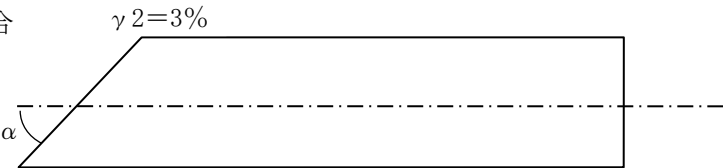
(注)ケーブル質量はロス率5%を含んだ値である。

(5) 横締め緊張 1.0ケーブル当り単価表

歩掛コード		S175420		
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り よ う 世 話 役		人	0.4	表 7-8
橋 り よ う 特 殊 工		人	1.2	〃
普 通 作 業 員		人	0.6	〃
定 着 装 置	(緊張側)	組	10.0	表 7-9
定 着 装 置	(固定側)	組	10.0	〃
諸 雑 費	(労務費)×率	%	4.0	
合 計				
1ケーブル当り		ケーブル	10	

(6) 機械器具損料 1 工事当り単価表

歩掛コード		S175430		
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
緊 張 シ ャ ッ キ ・ ホ ン プ	570KN(60t)型	供用日		表 7-10
合 計				
1 工事当り		工事	1	

ページ	改正	現 行																																				
P3	3-3 製作標準工数の補正 重連、斜角及び曲線橋の補正は、次による。 3-3-1 重連補正 同一形式、同一支間の場合は、次による。 表 3-2 重連補正 <table><tr><td>連 数</td><td>2</td><td>3・4</td><td>5・6</td><td>7 以上</td><td>記 事</td></tr><tr><td>補正率 (γ 1)</td><td>-3%</td><td>-4%</td><td>-6%</td><td>-7%</td><td></td></tr></table> (注) 連続桁は、1 連続桁を 1 連とする。 3-3-2 斜角補正 橋端部が斜めである場合は次による。 表 3-3 斜角補正 <table><tr><td>斜角</td><td>補正率 (γ 2)</td><td>記事</td></tr><tr><td>α < 90°</td><td>3%</td><td></td></tr></table> (注) 1. 次のような場合の斜角補正は、以下による。 2. 桁自体を湾曲させている曲線橋は、斜橋による工数割増の対象としない。 (1) 単純桁 片側斜角の場合  (2) 連続桁 (略)	連 数	2	3・4	5・6	7 以上	記 事	補正率 (γ 1)	-3%	-4%	-6%	-7%		斜角	補正率 (γ 2)	記事	α < 90°	3%		3-3 製作標準工数の補正 重連、斜角及び曲線橋の補正は、次による。 3-3-1 重連補正 同一形式、同一支間の場合は、次による。 表 3-2 重連補正 <table><tr><td>連 数</td><td>2</td><td>3・4</td><td>5・6</td><td>7 以上</td><td>記 事</td></tr><tr><td>補正率 (γ 1)</td><td>-3%</td><td>-4%</td><td>-6%</td><td>-7%</td><td></td></tr></table> (注) 連続桁は、1 連続桁を 1 連とする。 3-3-2 斜角補正 橋端部が斜めである場合は次による。 表 3-3 斜角補正 <table><tr><td>斜角</td><td>補正率 (γ 2)</td><td>記事</td></tr><tr><td>α < 90°</td><td>3%</td><td></td></tr></table> (注) 1. 次のような場合の斜角補正は、以下による。 2. 桁自体を湾曲させている曲線橋は、斜橋による工数割増の対象としない。 (1) 単純桁 片側斜角の場合  (2) 連続桁 (略)	連 数	2	3・4	5・6	7 以上	記 事	補正率 (γ 1)	-3%	-4%	-6%	-7%		斜角	補正率 (γ 2)	記事	α < 90°	3%	
連 数	2	3・4	5・6	7 以上	記 事																																	
補正率 (γ 1)	-3%	-4%	-6%	-7%																																		
斜角	補正率 (γ 2)	記事																																				
α < 90°	3%																																					
連 数	2	3・4	5・6	7 以上	記 事																																	
補正率 (γ 1)	-3%	-4%	-6%	-7%																																		
斜角	補正率 (γ 2)	記事																																				
α < 90°	3%																																					
P4	(2) 連続桁 (略)	(2) 連続桁 (略)																																				

ページ

<

ページ

P13

改正

(略)

(注) 1. 架設及び塗装足場において桁下に防護工を併設する場合は、朝顔を防護工必要面積（全幅員×必要長）分計上する。更に各工程で兼用使用する場合は、各々必要な賃料及び労務を別途考慮する。
2. N₁N₂は、橋りょう世話役及び橋りょう特殊工の換算値である。

表 11-1 主体足場各係数

種 類	パイプ吊足場				ワイヤーブリッジ転用足場			
	L ₁	L ₂	N ₁	N ₂	L ₁	L ₂	N ₁	N ₂
プレートガーダー ボックスガーダー	201	108	<u>0.033</u>	<u>0.023</u>	269	87	<u>0.051</u>	<u>0.032</u>
トラス、アーチ	403	263	<u>0.063</u>	<u>0.038</u>	944	599	<u>0.081</u>	<u>0.047</u>

(注) 1. ワイヤーブリッジ転用足場を使用する場合は、架設のみしか適用できない。
2. ワイヤーブリッジ転用足場でトラス、アーチについて、上側足場はパイプ足場としての複合単価である。

表 11-2 中段足場各係数

種 類	L ₁	L ₂	N ₁	N ₂
プレートガーダー ボックスガーダー	126	77	<u>0.015</u>	<u>0.008</u>
トラス	179	140	<u>0.015</u>	<u>0.008</u>

(注) 中段足場は桁高（腹板高）が 1.5m 以上の場合に計上する。なお、トラスの場合は上弦材又は下弦材が 1.5m 以上の場合、その各々に中段足場を計上する。

現 行

(略)

(注) 架設及び塗装足場において桁下に防護工を併設する場合は、朝顔を防護工必要面積（全幅員×必要長）分計上する。更に各工程で兼用使用する場合は、各々必要な賃料及び労務を別途考慮する。

表 11-1 主体足場各係数

種 類	パイプ吊足場				ワイヤーブリッジ転用足場			
	L ₁	L ₂	N ₁	N ₂	L ₁	L ₂	N ₁	N ₂
プレートガーダー ボックスガーダー	201	108	<u>0.029</u>	<u>0.020</u>	269	87	<u>0.045</u>	<u>0.028</u>
トラス、アーチ	403	263	<u>0.056</u>	<u>0.034</u>	944	599	<u>0.072</u>	<u>0.042</u>

(注) 1. ワイヤーブリッジ転用足場を使用する場合は、架設のみしか適用できない。
2. ワイヤーブリッジ転用足場でトラス、アーチについて、上側足場はパイプ足場としての複合単価である。

表 11-2 中段足場各係数

種 類	L ₁	L ₂	N ₁	N ₂
プレートガーダー ボックスガーダー	126	77	<u>0.013</u>	<u>0.007</u>
トラス	179	140	<u>0.013</u>	<u>0.007</u>

(注) 中段足場は桁高（腹板高）が 1.5m 以上の場合に計上する。なお、トラスの場合は上弦材又は下弦材が 1.5m 以上の場合、その各々に中段足場を計上する。

ページ

P14

改正

表 11-3 安全通路各係数

種 類	L ₁	L ₂	N ₁	N ₂
プレートガーダー ボックスガーダー	37	33	0.009	0.006
トラス	54	49	0.019	0.011

表 11-4 部分作業床各係数

種 類	L ₁	L ₂	N ₁	N ₂
プレートガーダー ボックスガーダー	78	73	0.005	0.004
トラス	316	294	0.020	0.012

表 11-5 朝顔各係数

種 類	L ₁	L ₂	N ₁	N ₂
プレートガーダー ボックスガーダー	134	78	0.016	0.011
トラス	103	101	0.016	0.011

(注) 上表は両側朝顔時の係数である。

表 11-6 床版追加足場各係数

種 類	L ₁	L ₂
プレートガーダー ボックスガーダー	15	11
トラス		

現 行

表 11-3 安全通路各係数

種 類	L ₁	L ₂	N ₁	N ₂
プレートガーダー ボックスガーダー	37	33	0.008	0.005
トラス	54	49	0.017	0.010

表 11-4 部分作業床各係数

種 類	L ₁	L ₂	N ₁	N ₂
プレートガーダー ボックスガーダー	78	73	0.004	0.003
トラス	316	294	0.018	0.011

表 11-5 朝顔各係数

種 類	L ₁	L ₂	N ₁	N ₂
プレートガーダー ボックスガーダー	134	78	0.014	0.010
トラス	103	101	0.014	0.010

(注) 上表は両側朝顔時の係数である。

表 11-6 床版追加足場各係数

種 類	L ₁	L ₂
プレートガーダー ボックスガーダー	15	11
トラス		

ページ

P18

改正

11-2 防護工

防護工は、使用目的・種類等により、次に基づいて計上する。
なお、板張防護、シート張防護を桁下に設置する場合は別途足場工にて主体足場及び朝顔を計上する。

11-2-1 板張防護工

桁下に鉄道、道路等があり第三者に危害を及ぼす恐れのある場合に計上するものとし「(1) 足場工」で算定した足場工費に加算する。

板張防護工費＝(L₁＋L₂T₈＋(N₁＋N₂) y) × A (円)

L₁、L₂：賃料係数(表 11-10)

T₈：防護部を供用している月数……………(月)

N₁：組立歩掛係数……………(表 11-10)

N₂：解体歩掛係数……………(表 11-10)

y：橋りょう特殊工単価……………(円／人)

A：防護工必要橋面積……………(㎡)

A＝全幅員(地覆外縁間距離) × 必要長

(注) N₁N₂は、橋りょう世話役及び橋りょう特殊工の換算値である。

表 11-10 板張防護工各係数

種 類	L ₁	L ₂	N ₁	N ₂
プレートガーダー	217 (149)	141 (129)	<u>0.030</u> <u>(0.028)</u>	<u>0.013</u> <u>(0.012)</u>
ボックスガーダー				
ト ラ ス				

(注) 1. () 内は片側朝顔の場合使用する。
2. 単価には、側面(朝顔)部分に要する防護費を含む。

11-2-2 シート張防護工

鋼橋塗装において塗装飛散を防止する必要がある場合に計上するものとし、「(1) 足場工」で算定した足場工費に加算する。ただし、桁下に鉄道、道路等があり第三者に危害を及ぼす恐れがある場合は、板張防護工とする。

シート張防護工費＝{L₁＋L₂T₈＋N₁y (組立) ＋N₂y (解体)} × A (円)

L₁、L₂：賃料係数……………(表 11-11)

T₈：防護部を供用している月数……………(月)

N₁：組立歩掛係数……………(表 11-11)

N₂：解体歩掛係数……………(表 11-11)

y：橋りょう特殊工単価……………(円／人)

A：防護工必要橋面積……………(㎡)

A＝全幅員(地覆外縁間距離) × 必要長

(注) N₁N₂は、橋りょう世話役及び橋りょう特殊工の換算値である。

表 11-11 シート張防護工各係数

種 類	L ₁	L ₂	N ₁	N ₂
プレートガーダー	97 (73)	60 (45)	<u>0.007</u> <u>(0.006)</u>	<u>0.004</u> <u>(0.004)</u>
ボックスガーダー				
ト ラ ス				

現行

11-2 防護工

防護工は、使用目的・種類等により、次に基づいて計上する。
なお、板張防護、シート張防護を桁下に設置する場合は別途足場工にて主体足場及び朝顔を計上する。

11-2-1 板張防護工

桁下に鉄道、道路等があり第三者に危害を及ぼす恐れのある場合に計上するものとし「(1) 足場工」で算定した足場工費に加算する。

板張防護工費＝(L₁＋L₂T₈＋(N₁＋N₂) y) × A (円)

L₁、L₂：賃料係数(表 11-10)

T₈：防護部を供用している月数……………(月)

N₁：組立歩掛係数……………(表 11-10)

N₂：解体歩掛係数……………(表 11-10)

y：橋りょう特殊工単価……………(円／人)

A：防護工必要橋面積……………(㎡)

A＝全幅員(地覆外縁間距離) × 必要長

表 11-10 防護部各部数量

種 類	L ₁	L ₂	N ₁	N ₂
プレートガーダー	217 (149)	141 (129)	<u>0.027</u> <u>(0.025)</u>	<u>0.012</u> <u>(0.011)</u>
ボックスガーダー				
ト ラ ス				

(注) 1. () 内は片側朝顔の場合使用する。
2. 単価には、側面(朝顔)部分に要する防護費を含む。

11-2-2 シート張防護工

鋼橋塗装において塗装飛散を防止する必要がある場合に計上するものとし、「(1) 足場工」で算定した足場工費に加算する。ただし、桁下に鉄道、道路等があり第三者に危害を及ぼす恐れがある場合は、板張防護工とする。

シート張防護工費＝{L₁＋L₂T₈＋N₁y (組立) ＋N₂y (解体)} × A (円)

L₁、L₂：賃料係数……………(表 11-11)

T₈：防護部を供用している月数……………(月)

N₁：組立歩掛係数……………(表 11-11)

N₂：解体歩掛係数……………(表 11-11)

y：橋りょう特殊工単価……………(円／人)

A：防護工必要橋面積……………(㎡)

A＝全幅員(地覆外縁間距離) × 必要長

表 11-11 シート張防護工各係数

種 類	L ₁	L ₂	N ₁	N ₂
プレートガーダー	97 (73)	60 (45)	<u>0.006</u> <u>(0.005)</u>	<u>0.003</u> <u>(0.003)</u>
ボックスガーダー				
ト ラ ス				

11-2 防護工

防護工は、使用目的・種類等により、次に基づいて計上する。

なお、板張防護、シート張防護を桁下に設置する場合は別途足場工にて主体足場及び朝顔を計上する。

11-2-1 板張防護工

桁下に鉄道、道路等があり第三者に危害を及ぼす恐れのある場合に計上するものとし「(1) 足場工」で算定した足場工費に加算する。

板張防護工費＝(L₁＋L₂T₈＋(N₁＋N₂) y) × A (円)L₁、L₂：賃料係数(表 11-10)T₈：防護部を供用している月数……………(月)N₁：組立歩掛係数……………(表 11-10)N₂：解体歩掛係数……………(表 11-10)

y：橋りょう特殊工単価……………(円／人)

A：防護工必要橋面積……………(㎡)

A＝全幅員(地覆外縁間距離) × 必要長

表 11-10 防護部各部数量

(注) 1. () 内は片側朝顔の場合使用する。

2. 単価には、側面(朝顔)部分に要する防護費を含む。

11-2-2 シート張防護工

鋼橋塗装において塗装飛散を防止する必要がある場合に計上するものとし、「(1) 足場工」で算定した足場工費に加算する。ただし、桁下に鉄道、道路等があり第三者に危害を及ぼす恐れがある場合は、板張防護工とする。

シート張防護工費＝{L₁＋L₂T₈＋N₁y (組立) ＋N₂y (解体)} × A (円)L₁、L₂：賃料係数……………(表 11-11)T₈：防護部を供用している月数……………(月)N₁：組立歩掛係数……………(表 11-11)N₂：解体歩掛係数……………(表 11-11)

y：橋りょう特殊工単価……………(円／人)

A：防護工必要橋面積……………(㎡)

A＝全幅員(地覆外縁間距離) × 必要長

表 11-11 シート張防護工各係数

ページ	改正	現 行
P19	(注) 1. () 内は片側朝顔の場合使用する。 2. 単価には、側面（朝顔）部分に要する防護費を含む。 3. 「シート＋板」張防護を行う場合は、別途積算する。 また、トラス等側面を塗装する場合において、飛散防止のためのシート防護工を設置する場合は次式による。 シート張防護工費＝{39＋26 T₉＋0.003 y（設置）＋0.001 y（撤去）} × A _____ T₉ ：防護工供用月数……………（月） y ：橋りょう特殊工単価……………（円／人） A ：トラス等の側面面積（左右両弦の計）……………（㎡） A＝側面投影面積×2 11-2-3 ワイヤーブリッジ防護工 転落防護、落下防止及び対岸又は相隣接する橋台、橋脚間の往来が困難な場所での通路足場設置の目的でワイヤーブリッジを設置する場合は、次式による。 (ワイヤーブリッジ転用足場としない場合) ワイヤーブリッジ防護工費＝{229＋59 T₁₀＋<u>0.050 y</u>（設置）＋<u>0.021 y</u>（撤去）} × A _____ T₁₀ ：防護工（ワイヤーブリッジ）供用月数……………（月） y ：橋りょう特殊工単価……………（円／人） A ：橋面積……………（㎡） A＝全幅員（地覆外縁間距離）×橋長 11-2-4 ネット防護工 転落防護、落下防止及び桁下の第三者への災害防止の目的で安全ネットを設置する場合とし、次式による。 (架設に先立ち、パイプ吊足場とは別途に設置する場合) ネット防護工費＝{128＋44 T₁₁＋<u>0.019 y</u>（設置）＋<u>0.015 y</u>（撤去）} × A _____ T₁₁ ：防護工（ネット）供用月数……………（月） y ：橋りょう特殊工単価……………（円／人） A ：防護工必要橋面積……………（㎡） A＝全幅員（地覆外縁間距離）×必要長（支間長）	(注) 1. () 内は片側朝顔の場合使用する。 2. 単価には、側面（朝顔）部分に要する防護費を含む。 3. 「シート＋板」張防護を行う場合は、別途積算する。 また、トラス等側面を塗装する場合において、飛散防止のためのシート防護工を設置する場合は次式による。 シート張防護工費＝{39＋26 T₉＋0.003 y（設置）＋0.001 y（撤去）} × A <u>(円)</u> T₉ ：防護工供用月数……………（月） y ：橋りょう特殊工単価……………（円／人） A ：トラス等の側面面積（左右両弦の計）……………（㎡） A＝側面投影面積×2 11-2-3 ワイヤーブリッジ防護工 転落防護、落下防止及び対岸又は相隣接する橋台、橋脚間の往来が困難な場所での通路足場設置の目的でワイヤーブリッジを設置する場合は、次式による。 (ワイヤーブリッジ転用足場としない場合) ワイヤーブリッジ防護工費＝{229＋59 T₁₀＋<u>0.045 y</u>（設置）＋<u>0.019 y</u>（撤去）} × A <u>(円)</u> T₁₀ ：防護工（ワイヤーブリッジ）供用月数……………（月） y ：橋りょう特殊工単価……………（円／人） A ：橋面積……………（㎡） A＝全幅員（地覆外縁間距離）×橋長 11-2-4 ネット防護工 転落防護、落下防止及び桁下の第三者への災害防止の目的で安全ネットを設置場合とし、次式による。 (架設に先立ち、パイプ吊足場とは別途に設置する場合) ネット防護工費＝{128＋44 T₁₁＋<u>0.017 y</u>（設置）＋<u>0.013 y</u>（撤去）} × A <u>(円)</u> T₁₁ ：防護工（ネット）供用月数……………（月） y ：橋りょう特殊工単価……………（円／人） A ：防護工必要橋面積……………（㎡） A＝全幅員（地覆外縁間距離）×必要長（支間長）

ページ	改正	現 行
P22	12. 登り栈橋工 (1) 設置条件及び設置箇所数 橋脚における登り栈橋については、次により計上する。 ① 橋脚、橋台の高さが2.0m以上となる場合。 ② 設置箇所数は、河川内等で設置が困難な場合あるいは設置する必要がない場合を除き、現場状況を勘案し、橋脚、橋台に各1箇所とする。 (2) 登り栈橋工費（手摺先行工法） 登り栈橋の施工において「手摺先行工法に関するガイドライン（厚生労働省）」を適用する場合の設置・撤去にかかる歩掛は、下記とする。 登り栈橋工費（手摺先行工法）＝ {5,116+2,917T₁₁+<u>0.474y</u>（設置）+<u>0.341y</u>（撤去）} ×H（円） T₁₁ ：登り栈橋を供用している月数（月） y ：橋りょう特殊工単価（円／人） H ：登り栈橋の高さ（m） （注）手摺先行型枠組足場は二段手摺及び幅木の機能を有している。 （略）	12. 登り栈橋工 (1) 設置条件及び設置箇所数 橋脚における登り栈橋については、次により計上する。 ① 橋脚、橋台の高さが2.0m以上となる場合。 ② 設置箇所数は、河川内等で設置が困難な場合あるいは設置する必要がない場合を除き、現場状況を勘案し、橋脚、橋台に各1箇所とする。 (2) 登り栈橋工費（手摺先行工法） 登り栈橋の施工において「手摺先行工法に関するガイドライン（厚生労働省）」を適用する場合の設置・撤去にかかる歩掛は、下記とする。 登り栈橋工費（手摺先行工法）＝ {5,116+2,917T₁₁+<u>0.427y</u>（組立）+<u>0.307y</u>（撤去）} ×H（円） T₁₁ ：登り栈橋を供用している月数（月） y ：橋りょう特殊工単価（円／人） H ：登り栈橋の高さ（m） （注）手摺先行型枠組足場は二段手摺及び幅木の機能を有している。 （略）

ページ

現 P45
改 P33

改正

表 2-1 ラフテレーンクレーン規格選定表（油圧伸縮ジブ型 4.9 t）

ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型]【4.9t吊】

ブーム長（m） 作業半径（m）	4.9		5.5		6.5		7.5		9.5		11.5	
	フックの 地上高さ	定格 総荷重	フックの 地上高さ	定格 総荷重	フックの 地上高さ	定格 総荷重	フックの 地上高さ	定格 総荷重	フックの 地上高さ	定格 総荷重	フックの 地上高さ	定格 総荷重
	(m)	(t)	(m)	(t)	(m)	(t)	(m)	(t)	(m)	(t)	(m)	(t)
1.0	5.1	4.9	6.4	4.9	7.4	4.9	8.4	4.9				
1.5	4.9	4.9	6.3	4.9	7.3	4.9	8.4	4.9	10.4	4.9	12.4	4.9
2.0	4.7	4.9	6.1	4.9	7.2	4.9	8.2	4.9	10.3	4.9	12.3	4.9
2.5	4.5	4.9	5.9	4.9	7.0	4.9	8.1	4.9	10.2	4.9	12.2	4.9
3.0	4.1	4.9	5.6	4.9	6.8	4.9	7.9	4.9	10.0	4.9	12.1	4.9
3.5	3.7	4.9	5.3	4.9	6.5	4.9	7.6	4.9	9.8	4.9	12.0	4.9
4.0			4.8	4.9	6.1	4.9	7.4	4.9	9.6	4.9	11.8	4.9
4.5									9.4	4.8	11.6	4.8
5.0									9.1	4.7	11.4	4.6
5.5									8.8	4.2	11.1	4.1
6.0									8.4	3.8	10.8	3.7
7.0									7.4	3.1	10.1	3.1
8.0											9.1	1.8
9.0											8.0	1.5
10.0												
12.0												
14.0												
16.0												
18.0												
20.0												

ブーム長（m） 作業半径（m）	13.5		15.5		17.5		19.5		21.5		23.5	
	フックの 地上高さ	定格 総荷重	フックの 地上高さ	定格 総荷重	フックの 地上高さ	定格 総荷重	フックの 地上高さ	定格 総荷重	フックの 地上高さ	定格 総荷重	フックの 地上高さ	定格 総荷重
	(m)	(t)	(m)	(t)	(m)	(t)	(m)	(t)	(m)	(t)	(m)	(t)
1.0												
1.5	14.2	4.3										
2.0	14.4	4.9	16.4	4.9								
2.5	14.3	4.9	16.3	4.8	18.3	4.7	20.4	4.6				
3.0	14.2	4.9	16.2	4.8	18.3	4.7	20.3	4.6	22.5	2.5		
3.5	14.0	4.9	16.1	4.8	18.2	4.7	20.2	4.5	22.3	4.0	24.3	3.3
4.0	13.9	4.9	16.0	4.8	18.0	4.7	20.1	4.6	22.2	4.0	24.2	3.3
4.5	13.7	4.8	15.8	4.8	17.9	4.6	20.0	4.3	22.1	3.8	24.1	3.2
5.0	13.5	4.6	15.7	4.5	17.8	4.3	19.9	3.9	22.0	3.6	24.0	3.2
5.5	13.3	4.1	15.5	4.0	17.6	3.9	19.7	3.6	21.8	3.4	23.9	3.2
6.0	13.1	3.7	15.3	3.6	17.4	3.5	19.6	3.3	21.7	3.1	23.8	3.0
7.0	12.6	3.0	14.8	3.0	17.0	3.0	19.2	2.8	21.4	2.7	23.5	2.5
8.0	11.9	2.5	14.3	2.5	16.6	2.5	18.8	2.4	21.0	2.3	23.1	2.2
9.0	11.1	2.0	13.6	2.1	16.0	2.2	18.3	2.1	20.6	2.1	22.7	2.0
10.0	10.1	1.7	12.9	1.8	15.4	1.8	17.8	1.9	20.1	1.8	22.3	1.7
12.0			10.7	1.1	13.7	1.4	16.4	1.4	18.9	1.4	21.2	1.4
14.0					11.5	1.0	14.6	1.0	17.4	1.1	19.9	1.1
16.0							12.2	0.6	15.4	0.8	18.2	0.9
18.0									12.8	0.6	16.1	0.7
20.0									8.9	0.4		

現

ページ

改正

P45

(削る。)

現行

表 2-2 ラフテレーンクレーン規格選定表（油圧伸縮ジブ型 7 t）

機械名	ラフテレーンクレーン																	
規 格	油圧伸縮ジブ型7t吊																	
ブーム長(m)	4.9		5.5		6.5		7.5		9.5		11.5		13.5		15.5		17.5	
	フックの 地上高さ	定格 総荷重	フックの 地上高さ	定格 総荷重	フックの 地上高さ	定格 総荷重	フックの 地上高さ	定格 総荷重	フックの 地上高さ	定格 総荷重	フックの 地上高さ	定格 総荷重	フックの 地上高さ	定格 総荷重	フックの 地上高さ	定格 総荷重	フックの 地上高さ	定格 総荷重
作業半径(m)	(m)	(t)	(m)	(t)	(m)	(t)	(m)	(t)	(m)	(t)	(m)	(t)	(m)	(t)	(m)	(t)	(m)	(t)
1.0	5.6	7.0	6.2	6.6	7.2	6.0	8.2	5.3										
1.5	5.5	7.0	6.1	6.6	7.1	6.0	8.1	5.3	10.2	4.9	12.2	4.8						
2.0	5.3	7.0	5.9	6.6	7.0	6.0	8.0	5.3	10.1	4.9	12.1	4.8						
2.5	5.0	7.0	5.7	6.6	6.8	6.0	7.9	5.3	10.0	4.9	12.0	4.8	14.1	4.3	16.1	4.0	18.1	4.0
3.0	4.7	6.1	5.4	5.9	6.6	5.5	7.7	5.1	9.8	4.9	11.9	4.8	14.0	4.3	16.0	4.0	18.0	4.0
3.5	4.2	5.3	5.0	5.2	6.3	5.1	7.4	5.0	9.6	4.9	11.8	4.8	13.8	4.3	15.9	4.0	17.9	4.0
4.0									9.4	4.5	11.6	4.5	13.7	4.2	15.8	4.0	17.8	4.0
4.5									9.2	3.9	11.4	3.9	13.5	3.6	15.6	3.5	17.7	3.5
5.0									8.9	3.4	11.2	3.4	13.3	3.2	15.5	3.1	17.6	3.1
5.5									8.5	3.0	10.9	3.0	13.1	2.8	15.3	2.8	17.4	2.8
6.0									8.2	2.6	10.6	2.6	12.9	2.6	15.1	2.5	17.2	2.5
7.0											9.9	2.1	12.3	2.1	14.6	2.1	16.8	2.1
8.0											9.1	1.8	11.7	1.8	14.1	1.7	16.4	1.7
9.0											8.0	1.5	10.9	1.5	13.4	1.5	15.8	1.5
10.0															12.6	1.3	15.2	1.3
12.0															10.6	0.9	13.5	0.9

ページ

P46

現行

改正

(削る。)

表 2-3 ラフテレーンクレーン規格選定表（油圧伸縮ジブ型 10 t）

機 械 名	ラフテレーンクレーン																							
規 格	油圧伸縮ジブ型 10t吊																							
ブーム長	5.10		5.5		6.5		7.5		9.5		11.5		13.5		15.5		17.5		19.5		21.5		23.5	
(m)	フックの 地上高さ (m)	定格 総荷重 (t)	フックの 地上高さ (m)	定格 総荷重 (t)	フックの 地上高さ (m)	定格 総荷重 (t)	フックの 地上高さ (m)	定格 総荷重 (t)	フックの 地上高さ (m)	定格 総荷重 (t)	フックの 地上高さ (m)	定格 総荷重 (t)	フックの 地上高さ (m)	定格 総荷重 (t)	フックの 地上高さ (m)	定格 総荷重 (t)	フックの 地上高さ (m)	定格 総荷重 (t)	フックの 地上高さ (m)	定格 総荷重 (t)	フックの 地上高さ (m)	定格 総荷重 (t)	フックの 地上高さ (m)	定格 総荷重 (t)
1.0	6.1	10.0																						
1.5	6.0	10.0	6.4	9.9	7.4	8.5	8.4	7.1	10.5	5.0	12.5	5.0												
2.0	5.8	10.0	6.2	9.9	7.3	8.5	8.3	7.1	10.4	5.0	12.4	5.0	14.4	4.8	16.5	4.2								
2.5	5.5	7.0	6.0	7.0	7.1	7.0	8.2	7.0	10.3	5.0	12.3	5.0	14.4	4.8	16.4	4.2								
3.0	5.2	6.1	5.7	6.1	6.9	6.1	8.0	6.1	10.1	5.0	12.2	5.0	14.3	4.8	16.3	4.2	18.3	3.9	20.4	3.9				
3.5	4.8	5.3	5.3	5.3	6.6	5.3	7.7	5.3	9.9	5.0	12.0	5.0	14.1	4.8	16.2	4.2	18.2	3.9	20.3	3.9	22.3	3.1	24.3	2.2
4.0			4.9	5.2	6.2	5.1	7.4	5.1	9.7	4.9	11.9	4.9	14.0	4.7	16.1	4.2	18.1	3.9	20.2	3.9	22.2	3.1	24.3	2.2
4.5									9.5	4.8	11.7	4.6	13.8	4.4	15.9	4.1	18.0	3.8	20.1	3.6	22.1	2.9	24.2	2.2
5.0									9.2	4.3	11.5	4.1	13.6	3.9	15.8	3.7	17.9	3.5	19.9	3.3	22.0	2.8	24.1	2.2
5.5									8.8	3.8	11.2	3.7	13.4	3.6	15.6	3.4	17.7	3.2	19.8	3.0	21.9	2.7	23.9	2.2
6.0									8.5	3.4	10.9	3.3	13.2	3.2	15.4	3.1	17.5	3.0	19.6	2.8	21.7	2.5	23.8	2.2
7.0											10.2	2.8	12.6	2.7	14.9	2.6	17.1	2.5	19.3	2.4	21.4	2.2	23.5	1.9
8.0													12.0	2.2	14.4	2.2	16.7	2.1	18.9	2.0	21.1	1.9	23.2	1.7
9.0													11.2	1.9	13.7	1.9	16.1	1.9	18.4	1.8	20.6	1.6	22.8	1.5
10.0													10.2	1.6	12.9	1.6	15.5	1.6	17.8	1.6	20.1	1.5	22.4	1.4
12.0																	13.8	1.2	16.5	1.2	18.9	1.2	21.3	1.1
14.0																	11.6	0.9	14.7	0.9	17.4	0.9	20.0	0.9
16.0																					15.5	0.7	18.3	0.7
18.0																					12.9	0.5	16.2	0.5
20.0																							13.4	0.4
22.0																							9.4	0.3

ページ

P51

現
行

改正

表 2-8 ラフテレーンクレーン規格選定表（油圧伸縮ジブ型 45 t）

機械名	ラフテレーンクレーン																													
規 格	油圧伸縮ジブ型35t吊																													
ブーム長(m)	7.5		9.5		11.5		13.5		15.5		17.5		19.5		21.5		23.5		25.5		27.5		29.5		31.5		33.5		35.5	
	フックの 地上高さ	定格 総荷重	フックの 地上高さ	定格 総荷重	フックの 地上高さ	定格 総荷重	フックの 地上高さ	定格 総荷重	フックの 地上高さ	定格 総荷重	フックの 地上高さ	定格 総荷重	フックの 地上高さ	定格 総荷重	フックの 地上高さ	定格 総荷重	フックの 地上高さ	定格 総荷重	フックの 地上高さ	定格 総荷重	フックの 地上高さ	定格 総荷重	フックの 地上高さ	定格 総荷重	フックの 地上高さ	定格 総荷重	フックの 地上高さ	定格 総荷重	フックの 地上高さ	定格 総荷重
作業半径(m)	(m)	(t)	(m)	(t)	(m)	(t)	(m)	(t)	(m)	(t)	(m)	(t)	(m)	(t)	(m)	(t)	(m)	(t)	(m)	(t)	(m)	(t)	(m)	(t)	(m)	(t)	(m)	(t)	(m)	(t)
2.6	8.5	35.0																												
3.0	8.3	32.0	10.3	30.5	12.4	26.0	14.4	22.7	16.5	20.5	18.5	18.8	20.6	16.6	22.6	14.4	24.9	13.9	26.9	13.4	28.9	11.7	30.9	10.1						
3.5	8.1	28.8	10.1	27.5	12.2	24.3	14.3	21.9	16.4	20.3	18.4	18.8	20.5	16.6	22.5	14.4	24.5	12.6	26.5	11.3	28.6	10.1	30.3	10.1	32.9	9.1	34.9	8.2	36.9	7.4
4.0	7.8	26.0	9.9	25.2	12.1	23.0	14.2	21.3	16.3	20.2	18.3	18.8	20.4	16.6	22.4	14.4	24.4	12.6	26.5	11.3	28.5	10.1	30.3	10.1	32.3	9.1	34.3	8.2	36.3	7.4
4.5	7.5	23.0	9.7	22.9	11.9	21.5	14.0	20.3	16.1	19.3	18.2	18.1	20.3	16.2	22.3	14.2	24.3	12.6	26.4	11.3	28.4	10.1	30.4	9.0	32.5	8.2	34.5	7.3	36.2	7.3
5.0	7.1	20.5	9.4	20.5	11.6	20.3	13.8	19.5	16.0	18.6	18.1	17.6	20.1	15.8	22.2	14.1	24.2	12.6	26.3	11.3	28.3	10.1	30.4	9.0	32.4	8.2	34.4	7.3	36.2	7.3
5.5			8.8	20.4	11.2	19.6	13.6	18.4	15.8	17.5	17.9	16.4	20.0	15.1	22.1	13.7	24.1	12.4	26.2	11.2	28.2	10.0	30.3	9.0	32.3	8.2	34.3	7.3	36.1	7.3
6.0			8.4	18.7	10.9	18.1	13.4	17.0	15.6	16.3	17.7	15.4	19.8	14.3	21.9	13.2	24.0	12.2	26.1	11.0	28.1	9.9	30.2	9.0	32.2	8.2	34.2	7.3	36.1	7.3
7.0			7.4	14.4	10.1	14.4	12.8	14.2	15.1	14.0	17.3	13.6	19.5	12.8	21.6	12.0	23.7	11.2	25.8	10.5	27.9	9.7	29.9	9.0	32.0	8.2	34.0	7.3	35.9	7.3
8.0							12.3	12.0	14.7	12.0	16.8	12.0	19.1	11.4	21.2	10.7	23.4	10.1	25.5	9.5	27.6	9.0	29.7	8.4	31.8	7.8	33.8	7.2	35.7	7.2
9.0							11.5	9.8	14.1	9.8	16.3	9.8	18.6	9.6	20.8	9.4	23.0	9.1	25.1	8.6	27.3	8.1	29.4	7.6	31.5	7.1	33.6	6.6	35.4	6.5
10.0							10.5	8.3	13.3	8.3	15.6	8.3	18.0	8.3	20.3	8.3	22.6	8.2	24.7	7.8	26.9	7.3	29.0	6.9	31.2	6.4	33.3	6.0	35.1	5.9
12.0											14.0	6.2	16.7	6.2	19.1	6.2	21.5	6.2	23.8	6.2	26.0	6.1	28.2	5.8	30.4	5.4	32.6	5.0	34.5	5.0
14.0																	20.2	4.7	22.6	4.7	25.0	4.6	27.3	4.6	29.5	4.5	31.7	4.3	33.7	4.2
16.0																	18.5	3.9	21.1	3.9	23.7	3.9	26.1	3.9	28.4	3.8	30.7	3.8	32.8	3.7
18.0																	16.4	3.1	19.3	3.1	22.1	3.1	24.7	3.1	27.1	3.1	29.5	3.1	31.7	3.1
20.0																	13.6	2.5	17.1	2.5	20.1	2.5	23.0	2.5	25.6	2.5	28.2	2.5	30.4	2.5
22.0																					18.0	2.0	21.1	2.0	23.8	2.0	26.5	2.0	28.9	2.0
24.0																					14.9	1.2	18.6	1.2	21.7	1.2	24.7	1.2	27.2	1.2

(削る。)

改
正

ページ

改P41

改正

表2-9 ラフテレーンクレーン規格選定表（油圧伸縮ジブ型 70 t）

（新設）

ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型〕【70t吊】（1／2）

ブーム長 (m) 作業半径 (m)	9.8		11.5		13.5		15.5		17.5		19.5		21.5		23.5		25.5		27.5	
	フックの 地上高さ	定格 総荷重	フックの 地上高さ	定格 総荷重	フックの 地上高さ	定格 総荷重	フックの 地上高さ	定格 総荷重	フックの 地上高さ	定格 総荷重	フックの 地上高さ	定格 総荷重	フックの 地上高さ	定格 総荷重	フックの 地上高さ	定格 総荷重	フックの 地上高さ	定格 総荷重	フックの 地上高さ	定格 総荷重
	(m)	(t)	(m)	(t)	(m)	(t)	(m)	(t)	(m)	(t)	(m)	(t)	(m)	(t)	(m)	(t)	(m)	(t)	(m)	(t)
2.1	10.4	70.0																		
2.5	10.2	63.3	12.7	61.9	14.7	50.9	16.8	39.9	18.8	31.6	20.8	29.4	22.8	27.3	24.9	25.3	26.9	21.9	28.9	18.3
3.0	10.1	56.5	12.0	51.1	14.1	43.7	16.1	36.3	18.1	31.0	20.2	28.8	22.2	26.5	24.2	24.2	26.2	20.8	28.2	17.4
3.5	9.9	51.9	11.9	47.4	13.9	41.4	16.0	35.4	18.1	31.0	20.1	28.8	22.1	26.5	24.1	24.2	26.2	20.8	28.2	17.4
4.0	9.7	48.6	11.7	44.6	13.8	39.7	15.9	34.8	17.9	31.0	20.0	28.8	22.0	26.5	24.1	24.2	26.1	20.8	28.1	17.4
4.5	9.5	44.3	11.5	41.3	13.6	37.7	15.7	34.1	17.8	31.0	19.9	28.8	21.9	26.5	24.0	24.2	26.0	20.8	28.0	17.4
5.0	9.2	39.5	11.3	37.7	13.4	35.5	15.6	33.3	17.7	31.0	19.8	28.8	21.8	26.5	23.9	24.2	25.9	20.8	27.9	17.4
5.5	8.9	35.8	11.0	34.8	13.2	33.7	15.4	32.6	17.5	31.0	19.6	28.8	21.7	26.5	23.8	24.2	25.8	20.8	27.8	17.4
6.0	8.5	32.4	10.7	32.2	13.0	31.9	15.2	31.6	17.3	30.4	19.5	28.1	21.6	25.7	23.6	23.4	25.7	20.3	27.7	17.1
7.0			10.6	26.7	13.0	26.6	15.3	26.5	16.9	25.7	19.1	24.0	21.2	22.3	23.3	20.6	25.4	18.2	27.5	15.9
8.0			9.3	23.8	11.9	23.5	14.3	23.1	16.5	21.6	18.7	20.5	20.9	19.4	23.0	18.3	25.1	16.6	27.2	15.0
9.0									15.9	18.0	18.2	17.5	20.4	16.9	22.6	16.4	24.8	15.3	26.9	14.1
10.0									15.3	14.7	17.6	14.6	19.9	14.5	22.2	14.3	24.4	13.8	26.5	13.3
12.0									13.6	10.2	16.3	10.1	18.7	10.0	21.1	9.9	23.4	10.2	25.6	10.4
14.0											14.6	9.2	17.3	9.3	19.7	7.3	22.2	7.5	24.6	7.8
16.0															18.0	5.3	20.8	5.5	23.3	5.8
18.0															15.9	3.9	19.0	4.1	21.7	4.4
20.0															13.1	2.9	16.7	3.1	19.8	3.3
22.0																	13.9	2.8	17.5	2.9
24.0																				
26.0																				
28.0																				
30.0																				
32.0																				
34.0																				

ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型〕【70t吊】（2／2）

ブーム長 (m) 作業半径 (m)	29.5		31.5		33.5		35.5		37.5		39.5		41.5		43.5		45.5		47.5		
	フックの 地上高さ	定格 総荷重	フックの 地上高さ	定格 総荷重	フックの 地上高さ	定格 総荷重	フックの 地上高さ	定格 総荷重	フックの 地上高さ	定格 総荷重	フックの 地上高さ	定格 総荷重	フックの 地上高さ	定格 総荷重	フックの 地上高さ	定格 総荷重	フックの 地上高さ	定格 総荷重	フックの 地上高さ	定格 総荷重	
	(m)	(t)	(m)	(t)	(m)	(t)	(m)	(t)	(m)	(t)	(m)	(t)	(m)	(t)	(m)	(t)	(m)	(t)	(m)	(t)	
2.1																					
2.5	30.9	14.7																			
3.0	30.3	14.0	32.2	13.8	34.2	12.8															
3.5	30.2	14.0	32.2	12.4	34.2	12.3	36.2	12.1	38.8	11.9											
4.0	30.1	14.0	32.1	12.4	34.2	12.3	36.2	12.1	38.2	11.9	40.2	10.9	42.8	9.9							
4.5	30.1	14.0	32.1	12.4	34.1	12.3	36.1	12.1	38.1	11.9	40.1	10.9	42.2	9.8	44.2	8.5					
5.0	30.0	14.0	32.0	12.4	34.0	12.3	36.1	12.1	38.1	11.9	40.1	10.9	42.1	9.8	44.1	8.5	46.0	7.4	48.1	7.1	
5.5	29.9	14.0	31.9	12.4	34.0	12.3	36.0	12.1	38.0	11.9	40.0	10.9	42.0	9.8	44.1	8.5	46.0	7.4	48.0	7.1	
6.0	29.8	13.9	31.8	12.4	33.9	12.3	35.9	12.1	37.9	11.9	39.9	10.9	42.0	9.8	44.0	8.5	45.9	7.4	47.9	7.1	
7.0	29.6	13.5	31.6	12.4	33.7	12.3	35.7	12.1	37.7	11.9	39.8	10.9	41.8	9.8	43.8	8.5	45.8	7.4	47.8	7.1	
8.0	29.3	13.3	31.4	12.4	33.4	12.3	35.5	12.1	37.5	11.9	39.6	10.9	41.6	9.8	43.7	8.5	45.6	7.4	47.6	7.1	
9.0	29.0	13.0	31.1	12.4	33.2	12.3	35.2	12.1	37.3	11.9	39.4	10.9	41.4	9.8	43.5	8.5	45.4	7.4	47.5	7.1	
10.0	28.7	12.7	30.8	12.4	32.9	12.3	35.0	12.1	37.0	11.9	39.1	10.9	41.2	9.8	43.2	8.5	45.2	7.4	47.3	7.1	
12.0	27.9	10.7	30.0	10.7	32.2	10.6	34.3	10.5	36.4	10.3	38.5	9.9	40.6	9.4	42.7	8.5	44.7	7.4	46.8	7.1	
14.0	26.9	8.1	29.1	8.3	31.3	8.4	33.5	8.5	35.7	8.6	37.8	8.4	40.0	8.2	42.1	7.8	44.1	6.7	46.2	6.4	
16.0	25.7	6.1	28.0	6.3	30.3	6.4	32.6	6.6	34.8	6.7	37.0	6.8	39.2	6.8	41.4	6.8	43.4	5.9	45.5	5.6	
18.0	24.3	4.6	26.8	4.8	29.2	5.0	31.5	5.1	33.8	5.3	36.1	5.4	38.3	5.5	40.5	5.5	42.6	5.0	44.8	4.9	
20.0	22.6	3.6	25.2	3.7	27.8	3.9	30.2	4.0	32.6	4.1	35.0	4.2	37.3	4.3	39.5	4.4	41.7	4.0	43.9	4.1	
22.0	20.5	1.9	23.4	2.8	26.2	3.0	28.8	3.1	31.3	3.3	33.7	3.4	36.1	3.5	38.4	3.6	40.6	3.2	42.9	3.3	
24.0	18.0	0.9	21.3	2.2	24.3	2.3	27.1	2.4	29.7	2.6	32.3	2.7	34.8	2.8	37.2	2.9	39.5	2.5	41.8	2.6	
26.0			18.7	1.6	22.0	1.7	25.1	1.9	27.9	2.0	30.6	2.1	33.3	2.2	35.8	2.3	38.2	1.9	40.6	2.0	
28.0				15.4	0.7	19.4	1.0	22.7	0.7	25.7	1.6	28.8	1.6	31.5	1.7	34.2	1.8	36.7	1.4	39.2	1.5
30.0									23.3	1.1	26.6	1.2	29.6	1.3	32.4	1.4	35.0	1.0	37.6	1.1	
32.0									20.4	0.8	24.0	0.9	27.3	0.9	30.4	1.0	33.2	0.7	35.9	0.8	
34.0									17.6	0.5	21.9	0.6	24.6	0.6	27.9	0.7					

ページ

現 P55
改 P42

改正

表-3 吊上げ余裕代（A）

(m)

部材幅（m） 吊上げ 高さ(m)	2.0 以下	2.0 超え ～2.5 以下	2.5 超え ～3.0 以下	3.0 超え ～4.5 以下
5	10	10	10	10
10	10	12	12	12
15	12	12	12	12
20	12	12	12	15
25	15	15	15	15
30	15	15	15	15
35	15	15	15	15
40	15	15	15	15

(注) A・・・ブーム先端から部材上端までの距離（図-2 参照）

表-4 フックブロック質量表

吊上げ荷重（t）	フックブロック質量（kg）
10.0	140
15.0	220
20.0	290
25.0	360
30.0	440
35.0	510
40.0	590
45.0	670
50.0	750
55.0	830
60.0	910
65.0	990
70.0	1,070
80.0	1,230
90.0	1,400
100.0	1,570
120.0	1,930
150.0	2,480
200.0	3,470
250.0	4,530
300.0	5,680
350.0	6,910
450.0	9,600
500.0	11,100
650.0	15,900

※この表に示す吊上げ荷重（t）は、クレーンの能力を示すものではなく、使用クレーンでの吊上げ荷重とフックブロック質量との関係を示すものである。（例えば、最大吊能力が 100t のクレーンには、いつでも 1570 kgのフックブロックをつけて作業するという意味ではない。例えば、作業半径と吊上げ高さの関係から、55t の吊り荷作業を定常業務として使用する場合は、フックブロック質量を 830 kgとして、選定すればよいことを示す表である。）

現 行

表-3 吊上げ余裕代（A）

(m)

部材幅（m） 吊上げ 高さ(m)	2.0 以下	2.0 超え ～2.5 以下	2.5 超え ～3.0 以下	3.0 超え ～4.5 以下
5	10	10	10	10
10	10	12	12	12
15	12	12	12	12
20	12	12	12	15
25	15	15	15	15
30	15	15	15	15
35	15	15	15	15
40	15	15	15	15

(注) A・・・ブーム先端から部材上端までの距離（図-2 参照）

表-4 フックブロック質量表

吊上げ荷重（t）	フックブロック質量（kg）
10.0	100
15.0	170
20.0	230
25.0	280
30.0	360
35.0	400
40.0	450
45.0	500
55.0	750
60.0	800
65.0	880
70.0	940
90.0	1,440
100.0	1,800
120.0	2,300
150.0	2,650
200.0	2,800
250.0	4,500
300.0	5,300
350.0	7,700
450.0	8,400
500.0	10,000
650.0	15,500
750.0	22,400

※この表に示す吊上げ荷重（t）は、クレーンの能力を示すものではなく、使用クレーンでの吊上げ荷重とフックブロック質量との関係を示すものである。（例えば、最大吊能力が 100t のクレーンには、いつでも 1800 kgのフックブロックをつけて作業するという意味ではない。例えば、作業半径と吊上げ高さの関係から、55t の吊り荷作業を定常業務として使用する場合は、フックブロック質量を 750 kgとして、選定すればよいことを示す表である。）